

国内外の包装技術開発の最近事例と

1名分料金で
2人目無料

日本の包装が進む方向と開発に必要な視点【LIVE配信】 【アーカイブ配信】

◆日時：2025年11月13日(木) 12:30~16:30
【アーカイブ配信：11/17~11/28(何度でも受講可能)】

◆会場：【WEB限定セミナー】※ご自宅や職場でご受講下さい。

◆受講料：1名につき49,500円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をしていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

- ・1名でお申し込みされた場合、1名につき**46,200円**
- ・2名同時にお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,500円)**
- ・ライブ配信視聴、アーカイブ配信視聴いずれも受講料は同じです。

セミナーHP <https://www.rdsc.co.jp/seminar/250923>

セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

【講師】※講師のご略歴は弊社HPでご確認下さい。

住本技術士事務所 所長 技術士(経営工学) 住本充弘 氏

ご専門：パッケージの開発、パッケージ加工技術を利用した産業部材の開発

ご活動：・包装学会 (公社)日本技術士会 会員 技術士包装物流会理事

・日本包装コンサルタント協会 理事 ・日本包装管理士会 ・海外との情報交換

ご略歴：1967年3月 東北大学 理学部 化学科卒業
1967年4月 大日本印刷(株)入社 各種パッケージ開発及びシステム開発、
バリアフリー、ユニバーサルデザイン(user-friendly, accessible design package)、
RFID、環境対応パッケージ等
2004年1月 大日本印刷(株)定年退社
2004年1月から現在 国内外でパッケージングのコンサルタント活動。

【講座趣旨・プログラム】※詳細内容は弊社HPでご確認下さい。

EUの包装及び包装廃棄物規則、PPWRは2026年8月12日より適用開始となり、2030年より義務化となる。interpack 2026が開催され対応の包装が展示されるが、もはや循環型パッケージ、特に循環型プラスチック利用は当たり前となった。日本も法律を改訂し、プラスチック加工企業は再生プラスチックの年間の使用量目標とその実績報告を義務化する方向で動いている。メカニカルリサイクルとケミカルリサイクルが再生技術として利用できるが、日本の場合、EU向けの包装製品の出荷と国内向けの包装仕様をどのように対応するかの判断が求められる。国内外の具体的な事例を参考にこれからの包装の在り方を考える。

はじめに

1. EUのPPWRのポイント

- 1.1 全てのパッケージはrecyclable
- 1.2 日本からの包装製品の輸出は適合宣言書が必要
- 1.3 包装仕様の70%、80%以上がrecyclable材料
- 1.4 今後の予定

2. 海外のPCR使用の事例

- 2.1 軟包装
- 2.2 成形容器

3. 紙仕様の事例

- 3.1 バリア性コート
- 3.2 パルプ成形事例

4. プラスチックの再生再利用の課題

ー最新のリサイクル技術の説明、特にケミカルリサイクルは技術進歩も早く理解が必要。

4.1 ケミカルリサイクルの種類

- 1) 熱分解タイプ
- 2) ガス化タイプ
- 3) 超臨界タイプ
- 4) 電磁波タイプ
- 5) 酵素利用他の技術

4.2 マスバランス方式の利用

英国は認可、EUの産業界も賛同

4.3 メカニカルリサイクル向けの脱インキ及び脱臭対応

5. 使用済み包材の回収及び選別の課題

ープラスチック及び紙素材のラミネート品への対応をどのようにするか

- 5.1 国内外の回収・選別システムの事例
- 5.2 回収及び選別技術の実証実験

5.3 アップサイクリングに向けての脱インキ及び剥離技術

6. 求められる包装の機能の変化

- 6.1 Smart Package/Connected Package
- 6.2 センサー機能と鮮度保持
- 6.3 包装製品の市場追跡性及び偽造防止

7. これからのバリア化技術

- 7.1 OPPや延伸HDPEフィルムへの蒸着技術による水蒸気及び酸素バリア性の向上事例
- 7.2 多層コーティングやOPによるバリア化

8. 新しいフィルム及び先端技術の利用

- 8.1 新しい素材、コンポスタブル、バリア性の向上
- 8.2 AI、IoT、ロボット、リモートコントロールなどの事例紹介

9. 世界の最新のパッケージ紹介

WPO受賞事例、interpack 2026の動きを紹介

10. 包装材料の供給体制

小ロット、短納期対応の確立、デジタル印刷及び新しいラミネート加工技術の説明と海外の小ロット印刷の展開事例

11. 今後の方向性

今後の日本の包装に必要な課題について考察する。

おわりに

【質疑応答】

本セミナーは「Zoom」を使ったWEB配信セミナーとなります。Zoomを使ったWEB配信セミナー受講の手順

1) Zoomを使用されたことがない方は、こちら(https://zoom.us/download#client_4meeting)からミーティング用Zoomクライアントをダウンロードしてください。ブラウザ版でも受講可能です。

2) セミナー前日までに必ず動作確認をお願いします。はじめかたについてはこちら(<https://www.rdsc.co.jp/files/instruction/zoom.pdf>)をご覧ください。

3) 開催日直前にWEBセミナーへの招待メールをお送りいたします。セミナー開始10分前までにメールに記載されている視聴用URLよりご参加ください。

・セミナー資料は開催前日までにお送りいたします。無断転載、二次利用や講義の録音、録画などの行為を固く禁じます。

『包装技術開発』セミナー申込書 ※ご希望の参加形式にチェックを入れて下さい⇒ LIVE アーカイブ

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属	E-Mail
①		
②		

●Webセミナーの受講申込みについて●

必要事項をご明記の上、FAXでお申込み下さい。上記のLIVEかアーカイブにチェックを入れて下さい。弊社から受付完了のご連絡をいたしまして請求書をお送りいたします。セミナーお申込み後、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席下さい。代理の方も見つからない場合、営業日(土日祝日を除く)で8日前まででしたらキャンセルをお受けします。

受講料の支払いに関してはHPをご覧ください。

⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。

⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送



株式会社R & D支援センター

〒135-0016 東京都江東区東陽3-23-24 VORT東陽町ビル 7F

TEL) 03-5857-4811 FAX) 03-5857-4812 URL) <http://www.rdsc.co.jp/>